

安全・安心科学技術プロジェクト

資料 3-1

科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会
安全・安心科学技術委員会(第30回) H23.10.25

第3期科学技術基本計画を踏まえた基本的な考え方

○「社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術」の実現

○経済的価値のみならず安全・安心な社会の構築への貢献など社会的価値の創出を目指し、
研究開発の成果を通じたイノベーションを実現

平成23年度予算額：115百万円
(平成22年度予算額：421百万円)

安全・安心な社会の構築に貢献する分野の課題について、その成果が社会において実用化されることを目指して、研究開発を進める。
また、安全・安心に資する科学技術推進のための関連研究者等のネットワークの構築を図る。

重要研究開発課題の研究開発

○ テロ対策技術等に係る研究開発

我が国においても、テロ対策技術、危機管理等に関する技術の強化が必要である。これまで蓄積された基礎研究の成果を積極的に活用するため、大学・研究機関が現場と連携してテロ対策技術等に係る研究開発を実施。

【平成20年度採択プロジェクト】(事後評価)

《化学剤・生物剤のリアルタイム検知》

- ・生物剤検知用バイオセンサーシステムの開発(大阪大学)
- ・生物剤リアルタイム検知システムの開発(東芝)

【平成21年度採択プロジェクト】

《液体爆発物などの手製爆発物検知》

- ・液体爆発物検知技術の実用化(大阪大学)

○ 地域社会の安全・安心の確保に係る研究開発

平成20年度から、地域社会において安全・安心を確保するため、技術開発に留まらず、地域社会を具体的なユーザーとして、現場での実用化が期待される課題について研究開発を実施。

【平成20年度採択プロジェクト】

《災害時における地域の安全・安心の確保のための情報システムの構築》

- ・住民・行政協働ユビキタス減災情報システム(山梨大学)
- ・地域水害リスクマネジメントシステムの構築と実践(熊本大学)
- ・時空間処理と自律協調型防災システムの実現(東京工業大学)

地方
自治体
/
住民



大学・
研究機関



情報システム

安全・安心に関わる知・技術の共有化

個々の研究開発プロジェクトで得られた知見と人脈を集積し、整理・蓄積するとともに、これらの情報をニーズを持つ官庁や各分野の研究者にフィードバックすることにより、安全・安心に関わる知・技術のネットワークを構築する。